

林陽寺報 さくら

岐阜市岩田西 3-402 林陽寺 058-243-1380

ホームページ



お盆。親しい懐かしい方を迎え供養の三日間。懇ろに！

早いもので、お盆の季節になりました。家族揃ってご先祖様に手を合わせ、懇ろに勤めましょう。当寺におきまして、八月七日のお盆の法要（施食会）に始まり、二十四日の地藏盆までいろいろな行事を勤めます。

お盆のお経

お盆には、曹洞宗のお寺では「施食会（せじきえ）」という法要が行われます。食物を施すので施食会。昔は「施餓鬼会」つまり、餓鬼に施すから「お施餓鬼」といいました。その法要では、『甘露門（かんろもん）』という名前のお経を読みます。このお経は江戸時代の曹洞宗の学者である面山瑞方という方が古い式本をもとに校正・解説し、『施餓鬼作法』として撰述した比較的新しいお経です。

「甘露門」とは甘露の法門の略称です。法門とは、仏法・仏教の入口を意味し、転じてその入口に人々を導くための教えを意味します。

甘露とは、インドの古い時代の天の神々が不死を得るための飲み物として信じられていた水です。それが転じて、不老不死の理想郷を指すようになり、「涅槃（心の安らぎを得た状態）」を意味することとなったとも言われています。



このお経は、和文と陀羅尼（ダラニ＝呪文）で構成されています。内容は、仏法僧の三宝に加護を頂戴し、お釈迦様、観音様、阿難尊者をたたえ、この場（道場）に餓鬼

道に堕ちた無縁仏をはじめ、一切の精霊を集め、

「・・・普く、十方、窮尽虚空、周遍法界、微塵刹中。所有国土の一切の餓鬼に施す、先亡久遠、山川地主乃至曠野の諸鬼神等、請う来つて此に集まれ、我今悲愍して・・・汝に食を施す・・・願は速やかに成仏・・・」。

要約すれば「私達は、飢えに苦しんでいるあなたがたに、水や食べ物を与え、ほかの人たちと同様に、平安な世界に入られるように祈ります、あなたたちはもしその水や食べ物、頂いたならば、速やかに煩惱やこの世への未練を離れ迷わず成仏してください。」という意味の言葉を読誦します。

次に数々の陀羅尼を読みます。

まず、①餓鬼を呼び寄せます。②地獄の門を破り、施食供養の法会に参集させ、又、餓鬼はノドが細くて食べ物が入らないために、そ

のノドを大きく開いてあげます。

③その開いたノドに仏の功德でもって智慧の味が付いた食べ物
を供養してあげます。④甘露の
法味をもって一切の苦を除いて
あげます。⑤毘盧遮那仏（びる
しゃなぶつ・・・仏様）の加護に
よって、食べ物も多く餓鬼達に
与えようと願います。⑥五人の
如来様を呼び出してあげます。
⑦菩提心を発して修行への道をつ
けてやります。⑧菩薩が受持
すべき戒律を授けてあげます。
⑨修行するべき場所に安住させ
てあげます。⑩全ての諸仏と縁
を結び、悟りの世界に入るよう論
してあげます。という内容です。

五人の如来様とは・・・

多宝如来（宝勝如来）

仏の威光をもって、一切の餓鬼
の無量の罪を滅し、餓鬼の心（怒
りや貪りの心）を除いて、円満な
らしめ富や幸福を授ける仏様で
清らかな心を蘇らせます。

妙色身如来（阿閼如来）

無量の福により心身ともに満
ち足りた優しいお姿になり、穏や
かな表情に導きます。



甘露王如来（阿弥陀如来）

恐怖を無くし、飲食物を得る時
には、全て甘露の素晴らしい食事
に変じさせ、無常の喜びを与え、
身心に安楽の境地を与えてくだ
さいます。



広博身如来（中央大日如来）

速やかに苦しみの身体を離れ
て、布施された物を自由に食べさ
せ、飲食の楽しみを与えてくださ
います。

離怖畏如来（釈迦如来）

恐怖の世界や餓鬼の世界から
離れさせて、仏様の世界、浄土の
世界へと導いてくださいます。

五人の如来様には、それぞれに
役割のある仏様達です。

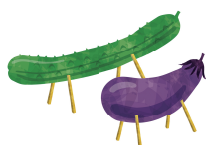
お寺で行われる「施食会（施餓
鬼会）」は、以上のような意味合い
のお経をお読みいたします。

こうした行事にお参りして「こ
ころの宇宙」を「ゆたか」にして
みてはいかがですか。

お釈迦様は「丁寧に供養すれば、
その功德力により多くのご先祖
や無縁の人たちも苦しみから救
われ、今生きている我々も幸福を
得ることができるよう」とお説
きになられました。

写真は、「施食法要」の様子です。

お塔婆を立て、「施食棚（施餓鬼
棚）」には「百味五果（ひやくみ
ごか）」（ごちそう）を供え供養を
します。各ご家庭でも盆棚と
いつて机などに真菰（まこも）や
布などを敷き、香炉やろうそく立
てを置き、お仏壇からお位牌を移
し、キュウリで馬をナスビで牛を
作り、水向けの水や花、供物をお
供えして準備をしましょう。棚
経（たなぎょう）といって、お寺
さんが来られましたら家族揃ってお詣り
しましょう。



「十三参り」

「ご存じですか。」

数え年十三歳（あるいは満十三
歳）の男女が、智慧と福を授かる
ことを願って、お参りする伝統的
な仏事のお祝いです。江戸時代
までは、十三歳とは男子は元服。



感の時期を迎えるお子様が、正装で儀式に臨むことで、大人への成長を自覚する心を育んでいただけたらと思います。

こうした呼びかけに賛同いただき、三月三日のおひな様の日に行いました。素晴らしい行事となりました。参加いただきました皆様ありがとうございました。

仏事は大般若理趣分を真読しお加持を行いました。初めてのこともであり、緊張の連続でしたが、終わってみて素晴らしい儀式だと思いました。関西の方では七五三のように普通に行われているようです。

第二回 動物供養祭

女子は本身祝い（大人の着物を着させてもらう）の年齢とされ、幼少期から大人への節目でした。

この度、林陽寺では十三参りのお問合せをいただき、初めての試みとして仏事を開く運びとなりました。

今（現代）の世では中学生になると、勉強、部活、塾の時間が増えて、身体は大人になりつつありますが、心のバランスを崩しやすい時期でもあります。そんな多

林陽寺に備えてあります、「動物供養墓」の前にて供養祭を行いました。第一回は秋でしたので、しだれ桜の咲くころにとの要望もあり、三月二十三日の春の彼岸の頃となりました。あいにくのお天気となり、本堂にて懇ろにお

勤めいたし、お焼香をしていただきました。在りし日のお写真などを飾っていただき、心温まる供養祭でした。ご参加いただきました



した皆様方がとうございました。しだれ桜は五分咲きのような感じでした。



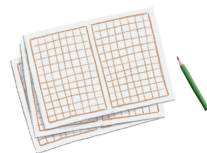
「につぼんの花地図」

角川出版

二〇二四年三月十一日、株式会社KADOKAWAより「につぼんの花地図」（税込1925円）が発行されました。全国一五六カ所、絶景桜五十選、花の御朱印「花ご利益めぐり」で日本を楽しむ・・・桜、藤、牡丹、バラ、石楠花などなど十六種以上・・・。当山の桜も五十選の中に入れて頂き、花の御朱印も載せて頂きました。桜のページは、和歌山の根来寺や身延山、御朱印のページは、あの有名な毛越寺、京都の岩船寺。なんだか恥ずかしい限りです。皆様にお知らせいたします。ありがとうございました。



つながりに憶う



護持会 顧問 津田芳朗

私と林陽寺との係わりは長く、多くの出来事や思い出があります。

今回、寺報「さくら」への寄稿を依頼されましたので、心の奥底に鮮明に残っている事についての一端を述べてみたいと思います。

元来、我が家は古くからの檀家で、寺のことは代々、父母、祖母が中心で、他の家族はお盆などの必要な時だけのお参りでした。

そんな中で、今回は、私の幼少期から壮年に至る間に会った「三つ」のことについて述べてみます。

「二つ目」は、先代のお庫裏さんは、私が岩国民学校入学（一九四

一年）の時の一年生の担任でした。その先生が先代（玄峰師）と結婚され、いつもお寺に居られる事になることに不思議な感じがしました。変な感じと、身近になった感じが混ざった思いを今も覚えています。

「三つ目」は、戦中（一九四〇～一九四五年）から戦後しばらくの間、夏休みには地域の子ども達みんなといつていい程、長良川の古津の鏡岩付近へ川浴び（水泳）に行ったものです。午前十一時頃から午後三時頃まで遊んでいて、乾いた喉を潤す為、林陽寺の釣瓶（つるべ）井戸の水を飲ませてもらい、腹いっぱい頂き、その



昔と変わらない鏡岩

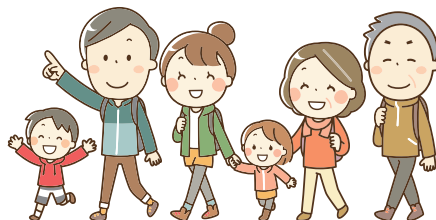
岩清水（岩の間からわき出るきれいな水）のうまい事うまい事、腹いっぱい頂き、山道（寺より東へ神社の前を通り、山すそをさらに東へ）を帰るのが近道でした。寺はみんなの憩いの場であり、涼しい遊び場でもありました。

「三つ目」は、昭和六十年（一九八五年）現住職様の晋山式の「安下処（あんぎょしょ）」（新しい住職が赴任のための旅装をといて休息、身支度を調える処）が私の自宅に置かれ、式の前後から家中で準備をさせて頂きました。

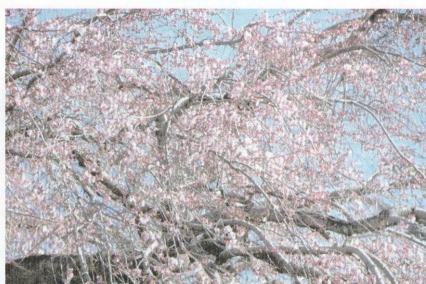
大変名誉な事で、新命住職様の親元ともなり、生涯に二度とないことを思い感謝、今日の幸せを感じています。晋山式の一か月前から立てた安下処の立看板、今も大切に保管しています。

以上、今回は三つの事について述べてみました。こうした思いは今も記憶に新しく「三つ子の魂百まで」と申しますが、何かの機会あるごとに蘇ります。幼少頃の体験は、ずっと「のち」まで心の奥に残るものです。価値観

の多様化といわれますが、人の真心は、今も昔も変わりなく、大差ないと思います。是非ともお寺にお参りの折には、身近な人や子ども達と一緒に出かけられてはと思います。つたない私の思いが皆様に通ずれば幸いです。



満開直前のしだれ桜のもとで音楽とマルシェ



3月24日、岩田西にある八幡山林陽寺で「寺カフェ」が開催されました。同寺にある有名な「しだれ桜」は満開直前で、境内や駐車場には岐阜市内や郡上八幡、多治見などのカフェや飲食ブースが出店。

あいにくの小雨にもかかわらず、会場ではアイリッシュミュージックのグループが演奏を聞かせ、来場者はお気に入りの店で買い物を楽しんでいました。